

『2016年上半期（1月～6月）JVA統計調査について』

当協会は9月16日(金)午前11時より、協会会議室において『2016年上半期（1月～6月）JVA統計調査結果』について記者発表会を開催しました。

以下に記者発表された報告の中から抜粋して2016年上半期の統計調査結果についてご報告いたします。

なお、同調査の詳細な結果は『日本映像ソフト協会統計調査報告書 Vol.82』として冊子にまとめられ、一般の方にも有料にて頒布しております。

詳細については、広報課上田または倉橋まで(03-3542-4433)、もしくは協会ホームページ「お問合せ」にアクセスしてください。

以 上

2016年上半期統計調査の結果について

- ※ 今期調査より、雑誌やコミック、食玩などとして他商品に付帯されるビデオソフトの売上を「特殊ルート」として調査の対象に含むこととした。
- ※ 今期より ULTRA HD Blu-ray を調査の対象としているが、当分の間、その実績はブルーレイの売上に含んで報告することとした。

1. 今期のビデオソフトの総売上金額は 1025 億 7700 万円で前年同期比 100.6%となった。

上半期実績が前年同期を上回ったのは 2011 年以来 5 年ぶりとなった。

そのうち、DVD ビデオは 587 億 5500 万円で前年同期比 98.0%、ブルーレイは 438 億 2200 万円で同 104.3%となり、DVD ビデオの低下をブルーレイの売上がカバーすることとなった。売上金額に占める DVD ビデオとブルーレイの割合は 57.3 対 42.7 となった。

売上数量においては、DVD ビデオの前年同期比が 109.7%、ブルーレイが同 103.1%で両方とも前年同期を大きく上回った。

2. ビデオソフト全体（DVD ビデオとブルーレイの合計）の売上金額を販売用、レンタル店用の市場別にみると、販売用が 780 億 2500 万円で前年同期比 103.1%と伸長したが、レンタル店用が 230 億 8200 万円で同 89.9%と前年同期を割り込んだ。今回新たに調査対象に加えた特殊ルートの売上金額は 6 億 6500 万円となった。販売用、特殊ルート、レンタル店用、業務用の売上金額における割合は、76.1 対 0.6 対 22.5 対 0.8

となった。

3. 販売用全体（DVD ビデオとブルーレイの合計）に占めるブルーレイの割合は 53.2% となった。DVD ビデオの販売用売上金額は 364 億 9500 万円で前年同期比 102.5%、ブルーレイの販売用は 415 億 3000 万円で同 103.6%と、両フォーマットとも前年同期を上回った。

販売用全体の売上金額をジャンル別に見てみると、構成比 1 位は『音楽(邦楽)』で構成比 35.7%を占め前年同期比 103.6%と伸長し、好調ぶりを堅持している。それに続いて構成比 2 位となった（構成比 28.3%）『日本のアニメーション(一般向け)』は同 98.7%とわずかに割り込むこととなった。3 位（同 12.6%）の『洋画 (TV ドラマを除く)』は同 157.3%と二桁の伸長となり 2015 年後半から好調ぶりが続いている。〈7 頁〉

各ジャンルの売上金額におけるブルーレイの割合は、『日本のアニメーション (一般向け)』が 75.6%、『洋画 (TV ドラマを除く)』は 73.4%、『邦画 (TV ドラマを除く)』は 49.0%、『音楽 (邦楽)』は 40.3%となった。

4. DVD ビデオの販売用の売上金額は 364 億 9500 万円で前年同期比 102.5%と伸長した。

ジャンル別に見てみると、『音楽 (邦楽)』が構成比 45.6%と過半に近いシェア比を占めることとなった。前年同期比 102.5%と伸長している。構成比第 2 位 (14.8%) の『日本のアニメーション (一般向け)』も同 119.8%と二桁の伸長となり、この 2 大ジャンルの好調が全体の伸長に影響した。第 3 位 (7.1%) の『洋画 (TV ドラマを除く)』は同 96.4%にとどまった

5. ブルーレイの販売用の売上金額は 415 億 3000 万円で前年同期比 103.6%と伸長した。

ジャンル別に見てみると、『日本のアニメーション (一般向け)』が構成比 40.2%を占め第 1 位となったが前年同期比 93.4%と苦戦した。一方、第 2 位(27.1%)の『音楽 (邦楽)』は同 105.2%と伸長が続き、第 3 位(17.3%)の『洋画 (TV ドラマを除く)』も同 204.0%と大きく伸長し、昨年からの上昇傾向が継続している。

6. レンタル店用全体の総売上金額に占める DVD ビデオとブルーレイの構成比は、91.9 対 8.1 で、相変わらず圧倒的に DVD ビデオが占めている。DVD のレンタル店用の売上金額は 212 億 1400 万円で前年同期比 88.9%と縮小傾向が続いている。一方のブルーレイは 18 億 6,800 万円で同 104.0%と前年同期を上回ったが、レンタル店用全体に影響を与えるまでには至っていない。

7. DVDビデオのレンタル店用の売上金額をジャンル別に見てみると、構成比1位(20.1%)の『洋画(TVドラマを除く)』が前年同期比91.4%、2位(17.6%)の『邦画(TVドラマを除く)』が同104.7%と伸長したが、第3位(17.4%)の『日本のアニメーション(一般向け)』が同87.7%、4位(14.5%)の『アジアのTVドラマ』も同88.1%と割り込んだ。

売上数量の構成比では、1位は28.3%を占める『アジアのTVドラマ』で、第2位(構成比25.0%)は『洋画(TVドラマを除く)』、第3位(15.6%)は『海外のTVドラマ』となっており、この3つのジャンルでほぼ数量の7割を占める。売上金額と大きく異なるこの傾向は、レベニューシェアリング方式の影響が大きい。

以 上